



ひまわり

タキイ研究農場
いけぐち ひであき
池口 英明



アップライト ひまわり 「F₁ サンリッチUP」シリーズ

おかげさまで、今年サンリッチひまわりは1991年の「サンリッチレモン」の発表から数え、30年目を迎えました。本シリーズは、日本国内はもちろん、世界最大の花市場であるオランダの「フローラホーランド」でも常に取り扱い本数トップのひまわりとなっています。

また、近年では、ベスト・ファアザー「イエローリボン賞」の花束や競泳ジャパンオープンビクトリーブレーケへの採用など、さまざまな方面で取り上げられています。

1992年発売の「サンリッチオレング」は、無花粉で端正に整った花型、花もちのよさ、早生でそろい性がよいなど、多くのすぐれた特長をもっていました。そして、この品種の普及に伴い、当時まだ少なかったひまわりの営利切り花栽培が急速にメジャーになっていきました。

その後も、マーケットの要望に応えるべく花色のバリエーションを充実させ、極早生品種の開発や耐病性付与などシリーズの強化を図ってきた結果、切り花ひまわりの普及・発展の一端を担えたのではないかと思います。

今回はその成果の一つである、2020年新発売の「サンリッチUPオレング」をはじめとした「サンリッチUP」シリーズを紹介します。

シリーズ特性

「サンリッチUP」シリーズは、世界初の真上を向いて咲く切り花ひまわりで、特にフラワーアレンジメントやブーケなど花の向きが気になるシーンの利用に適します。

栽培面では圃場の利用効率を高められる極早生45日タイプで、従来の「サマーサンリッチ」シリーズと同様に栽培でき、父の日出荷からシーズン終盤の9月まで利用が可能です。

また、出荷結束時の葉かきが容易で、上を向いて咲くため向きを気にせず選別・結束・箱詰ができます。そのため作業効率が上がると、生産者からも好評をいただいています。

カラーバリエーションは、メインとなる黒芯のオレンジ、アレンジメントなどで明るいイメージを与える緑芯のフレッシュオレンジ、フレッシュレモンの3品種となっています。

栽培ポイント

播種

ひまわりは直根性の植物であるため圃場、ハウスでの直播が一般的です。あらかじめ堆肥を施し耕起を行うとともに、土中の水分をしっかりとらせて

おきます。土壌のECは0.3〜0.5を目安とし、前作の残肥があるようなら、無肥料でスタートし、不足分を追肥で補うとよいでしょう。

手まきなら8〜12cm角のフラワーネットをあらかじめ畝の上に張り、ネットのマス目を基準に播種を行います。シードテープを使用した機械まきであれば作業効率は格段に上がります。

発芽のバラつきをなくすためには、深さ約2cmを目安に、均一に播種をすることが重要です。畝のサイドが偏つ

て大きく育つような環境では、サイドのみ2粒まきにし、養分・水分を2株に分散させるとよいでしょう。

たいへん開花ぞろいがよい品種です。出荷労力を分散させるためには、5〜7日おきに播種し、収穫適期をずらすようにしてください。地温が適温なら播種後3〜4日で発芽がそろいます。

発芽適温を大きく上回る高温期であれば、ハウスの遮光や通気、寒冷紗での畝の被覆、灌水を増やすなどの工夫で地温の上昇を防いでください。

栽培管理

発芽後からは株が勝ち負けを起こさないように水分管理に注意し、場所による乾湿の差が出ないように心掛けて灌水します。生育適温の15〜30℃を目安に、施設栽培であれば換気や保温を行います。病害や軟弱化を防ぐためにも十分な換気を心掛けてください。

草丈が10cm程度になったらフラワーネットを展張し、草丈の伸長に合わせてネット上げを行い、風などによる倒伏を防止します。発芽後2週間程度はし

品種特性

- 真上を向いて咲く無花粉切り花向け一本立ち品種
- 相対的短日開花性で最短45日開花の極早生品種
- 花茎はしっかりかたく、花もちのよい切り花が収穫できる

F ₁ サンリッチUP オレンジ (TH-837)	やや濃いオレンジ色の花弁に黒芯
F ₁ サンリッチUP フレッシュオレンジ	緑芯に明るいオレンジの花弁
F ₁ サンリッチUP フレッシュレモン	緑芯に鮮やかなイエローの花弁



オレンジ



フレッシュオレンジ



フレッシュレモン

開発ストーリー

品種開発では、ひまわりに限らず、まず育種の目標や品種のコンセプトが定められます。「サンリッチUP」は、アレンジメントやミニブーケ用に、より使いやすいひまわりができれば、これまで以上に切り花ひまわりの流通量が増え、切り花業界に貢献できるのではないかと、という発想から開発が始まりました。イメージは「ガーベラのようにしっかりと上を向いて咲くひまわり」でした。元来の性質として東を向いて咲くひまわりの交配・選抜を重ねること約10年、ようやく十分な栽培性・品質をもつ上向きで咲くひまわりを完

成させることができました。この新品种は、ひまわりのリーディングパラエティーである「サンリッチ」の切り花品質をそのままに、世界初の、真上を向いて花を咲かせる切り花ひまわりとして「サンリッチUP」と名づけられました。「UP」は“直立”“まっすぐ立つ”という意味の「アップライト(Upright)」の略となっています。上向き咲きという性質によって、アレンジメントへの使いやすさが向上し、発売初年から多くのフラワーショップやフローリストの方々に、驚きと称賛をもって迎えられています。

「サンリッチUP」の一般地作型例

月		3	4	5	6	7	8	9	10
ハウス	播種		■	■	■	■			
	出荷期				■	■	■	■	
露地	播種			■	■	■			
	出荷期					■	■	■	



↑従来品種との比較。右が従来品種、左が「UP」シリーズ。

採花は花首が固まってから
 ひまわりは高温期にはかた切りで出荷されることも多いですが、「サンリッチUP」シリーズでは極端な早切りは避け、花首が固まってから採花することをおすすめします。そうすることで、しっかりと上を向いた切り花として、消費者まで届けることができます。
 葉は止め葉3枚程度を残しすべてかき取り、規格に合わせ切り花の長さを切りそろえ、十分に水あげを行い出荷してください。

※栽培条件によっては、まれに花首が傾いて開花することがあります。

栽培Q&A

Q. おすすめの栽培方法はありますか？

A. 上向き咲きという特長を生かすため、生花店での店頭アレンジメントなどに使いやすい花径6~10cm程度の小作りにするのがおすすめです。そのためには、密植気味に栽培するのがよいでしょう。

しっかり灌水を行い、根の伸長と初期生育を確保しますが、生育後半は灌水を控え、しっかりとしまった草姿に仕上げていきます。よほど下葉が黄化するようなことでもなければ、基本的に追肥は不要です。

病虫害防除
 菌核病やうどんこ病、斑点細菌病などの発生に注意します。施設栽培では通風をしっかりと行い空気中の湿度を下げるとともに、定期的な薬剤防除を心掛けます。露地栽培では降雨後に病害が発生しやすいため雨後の葉散が効果的です。また、冷涼期の栽培ではべと病の発生がみられることがあるため、

薬剤防除と早期の抜き取り、発生が確認されている圃場では作付け前の土壌消毒が必要になります。
 一方、害虫はヨトウムシ、スリップ



Q. 従来のサンリッチシリーズとの使い分けを教えてください。

A. 「サンリッチUP」シリーズは、上向き咲きで、なおかつ極早生45日タイプのため、切花長は従来品種よりやや短くなります。早出し作型や抑制作型で草丈を確保したい場合は、従来品種の50日や55日タイプの方が適しています。